

【平成30年12月2日 朝日新聞 朝刊】

片山地方創生相 府警本部を視察

文化庁の移転先

片山さつき地方創生相は1日、文化庁の移転先となる上京区の府警本部本館を視察した。西脇隆俊知事から館内の説明を受け、「移転は国際的にも注目されるプロジェクト。絶対に成功させなければならぬ」と話した。

本館は1927（昭和2）年築。片山氏は2021年度までの移転に向けて、バリアフリー化を進める必要があるとしたりえ、「世界中から人が訪れる施設。昭和のいい建物を生かしながら、改修しなければならぬ」と述べた。

（安倍龍太郎）

文化庁移転先

片山氏が視察

「古きと新しさ融合を」

片山さつき地方創生担当相が1日、文化庁移転先となる京都市上京区の京都府警本部本館を視察した。西脇隆俊府知事と館内を回り、「全国的にも国際的に



府警本部本館で西脇隆俊府知事から説明を受ける片山地方創生担当相（京都市上京区）

も注目されるプロジェクトで、成功させないといけない」と強調した。

府警本部本館は1927年に建設された建物で、2021年度中の移転に向け府と市が改修を予定している。片山担当相は旧大蔵官僚時代、旧大蔵省本庁など同様の古い建物で働いた経験があり、視察後、記者団に「うまく生かして建て替えるのは次の世代への責任だが、難しさもある」と指摘。「古きものに新しいものをしっかりと組み合わせ、さすが京都だと言っていただけのようにしてほしい」と述べた。

企業の本社機能の地方移転も進めるため税制をさらに見直す方針や、企業版ふるさと納税の拡充などに取組み意向も示した。

（小川卓宏）